



<潮江東小研究テーマ> **学びに熱中する子供の育成** ↔ **子供たちが「思考し続ける」単元・本時を描く視点**

単元構想

- ☆国語科での「書く」活動を押し進める原動力は何か?
- ★教科等を「資質・能力」でつなぐ単元構想をすること (生活科を「学びを動かすエンジン」として利用する)
- ★単元を通して「なりたい自分」のイメージを一人一人がもつこと
- ★子供の「問い」の連続で1時間1時間をつなぐこと

本時

- ☆よりよい表現を求め続ける子供たちの姿を引き出すものは何か?
- ★発信相手からのダメ出し (これではまだ十分ではないと言われる)
- ★「なりたい自分」を再確認することで学びを「自分ごと」にすること
- ★解決の見通し (付箋紙を整理してもっと面白くなるように、足したり減らしたりする) を子供たちに気付かせること

島根県立大学教授・高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官 齊藤一弥先生の指導・助言

- ◎ **思考し続けて止まない態度の※涵養を目指す** ※自然に水がしみこむように、徐々に教え養うこと
- 「動機付け」が必要<生活科とのコラボ> **学びに向かう力**
- 国語科の目標の達成にも効果的 **人と関わる中で伝え合う力**
- 互恵関係を大切に**



潮江東小学校では、言語活動を設定する時に、授業者と子供たちが、以下の3点を共有し続けながら単元をつくっていくことを大切にしています。

- 相手意識** : 1月に一日入学で小学校にやって来る年長さんたち
- 目的意識** : 保育園の園長先生方からの依頼で、一日入学の時に年長さんたちを楽しませたい (条件として、①小学校でも勉強の様子が分かるようなこと ②小学校に行くことが楽しみになるようなこと)
- 意図くんだりたい自分・期待する相手からのリフレクション** : 年長さん達に自分がつくったお話を「初めて聞くお話で面白かった」と言ってもらいたい

第1学年 単元名：ようこそ おはなしのくにへ
 ※単元構想の詳細は、<別紙>参照
 教材名：「おはなしを かこう」(東京書籍 1年下)
 提案：高知市立潮江東小学校 1年1組 松尾麻美教諭

生活科 一時間目

◎自分たちでお話をつくって、年長さんに読み聞かせてあげたいけど、書けないぞ。
 ■年長さんが面白いと思ってくれそうなお話をどうやってつくればいいのか?



生活科 二時間目

◎ヒントにしたい昔話は決まったよ。
 ■人物は、どんな人になろうかな。
 ■どうやって、お話をもっと詳しくしたらいいかな?

国語科 三・四時間目

◎お話の登場人物と大筋はできたよ。
 ■年長さんに「面白い」って思ってもらえるお話にするためには、もっと詳しくしないといけないな。どうすればいいのか?

国語科 一時間目

◎自分たちでお話をつくって、年長さんに読み聞かせてあげたいけど、書けないぞ。
 ■年長さんが面白いと思ってくれそうなお話をどうやってつくればいいのか?

国語科 二時間目

◎自分たちでお話をつくって、年長さんに読み聞かせてあげたいけど、書けないぞ。
 ■年長さんが面白いと思ってくれそうなお話をどうやってつくればいいのか?

国語科 三・四時間目

◎自分たちでお話をつくって、年長さんに読み聞かせてあげたいけど、書けないぞ。
 ■年長さんが面白いと思ってくれそうなお話をどうやってつくればいいのか?

研究主任<高木美紗教諭>から
 教科等を「資質・能力」でつなぐ(今回は、生活科と国語科で「人と関わり伝え合う力を高める」)ことで、より「学びのエンジン」が回り、主体的に学びに熱中する子供の姿に近付くことができました。
 では、このように、教科等横断的に単元を構想するにあたって、「生活科と国語科の違いはどこにあるのか?」ということが大事になってくる。齊藤先生の事後指導から、国語科の時間には、「言葉そのもの・言葉と言葉の関係にこだわる」くせを付けること」ということをお習いした。国語という教科の本質である「常に言葉に戻り、使い方や意味や役割やよさに着目させる」ことが、生活科との大きな違いである。
 改めて、私たち授業者が、「言葉そのもの」「言葉と言葉の関係性」にこだわり、子供たちの目や思考を「言葉に戻す」「くせ」を授業の中で付けていきたい。

授業者<松尾麻美教諭>から
 本時の導入で、子供たちがつくっているお話に対して、園長先生からの評価を入れたことで、「もっと面白く書きたい」という意欲を再度高めることができた。単元の途中で適宜評価を入れることで、単元の相手意識を想起させ、子供たちを本気で活動に向かわせるのに有効だった。また、集めた情報(付箋紙)を整理・グルーピングし、線で囲んだりシールを貼ったりして、気付かせたいことを視覚的に示すことも効果的だと感じた。
 一方で、付箋紙を増やす活動になった時に、何をどのように書けば付箋紙を増やすことができるのか、具体的な手立てが少なかった。モデルとなった絵本をアレンジする、意図的にグッドモデルを取り上げて示す、動作化して気付かせる等、多様な手立てを講じる必要があった。
 子供たちの国語力・表現力を高めるためには、まず教師である自分が、言葉に対する意識やこだわりを強くもつ必要がある。日々の授業での姿勢をもう一度見直したい。

Before
 付箋紙を整理したら、お話の中の大切チーム(恩返し部分)がないことに気付いた

After
 お話を面白くするために大切チーム(恩返し部分)の付箋紙を書き足して、お話を詳しくした

増やした付箋紙

◎付箋紙を使って、「したこと」を沢山集めて詳しくすることができたよ。
 ■材料を集めた付箋紙がいっぱいになったけれど、どれを使って書けばいいのか?

関連付ける

本時
 国語科
 五時間目

単元の構想

(1) 児童の実態

本学級の児童は、文字に対する関心が高く、習ったひらがなやかたかな、漢字を使って文章を書くことにも意欲的である。毎週水曜日に取り組んでいるひがしタイムでは、少しずつ条件に沿った文章が書けるようになってきている。一方で、語彙が少ないことや表現力が未熟なこともあり、相手意識をもって順序や様子が分かりやすく伝わる内容を書くことにはまだ課題がある。

(2) 教材の特性

本教材は、書く領域の中の「創作」の系統に位置付けられている。今回は、1日入学で小学校に行く年長さんを楽しませてほしいという保育園の園長先生からの依頼のもと、昔話を基にしたお話を創作し、年長さんに読み聞かせをするという言語活動を設定した。児童にとってはお話の創作は初めてとなるが、親しみのある昔話を基にすることで想像力を広げることができる。また、年長さんが喜んでくれるお話を書くためには、登場人物の設定や出来事（したこと・言ったこと・様子）が必要であると気付いたり、想像したお話の内容の面白さを伝えるための語彙力や表現力を豊かにしたりすることができる教材である。と考える。

(3) 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
① 主語をはっきりさせたいうえで、主語と述語にねじれない文で書き表している。 【(1)カ文や文章】 <3時間目>	① 「書くこと」において、書くことのお話に必要な事柄を集めたり、集めた事柄の中から必要なものを選んだりしている。 【B書くこと A題材の設定、情報の収集、内容の検討】 <1・2・4・5・6・10時間目> ② 「書くこと」において、順序に沿って考えた構成を基に、出来事の順序とまとまりを明確にして記述している。 【B書くこと ウ考えの形成、記述】 <7時間目>	① 進んで、集めた付箋メモを活用して、年長さんが喜んでくれるように工夫も入れながら、お話をつくって書こうとしている。 <8時間目>

(4) 単元と評価の計画（全8時間）

学 習 内 容	生活科 国語科	ようこそ おはなしのくにへ		国語科	共有
		題材の設定	情報の収集		
問 意	◇保育園の園長先生から、「1日入学の時に、年長さんに学校での勉強の様子が分かり、楽しみな気持ちになるようなことをしてあげて欲しい」という依頼を受け、自分たちで作ったお話を読み聞かせすることを話し合っ決めて、実際に書いてみる。 ◎自分たちでお話をつくって、年長さんに読み聞かせしてあげたいけど、書けないぞ。 ■年長さんが面白いと思ってくれそうなお話をどうやってつくればいいのか？	◇自分が決めた人物の絵（キャラクター図）を描いて、イメージを膨らませる。 ◎ヒントにしたい昔話は決まったよ。 ■人物は、どんな人になろうかな。 ■どうやって、お話をもっと詳しくしたらいいかな？	◇つくっているお話に合う絵を描く。（お話の本紙になる） ◎付箋を使って、出来事をたくさん集めることができたよ。 ■材料を集めた付箋がいっぱいになったけれど、どれを使って書けばいいのか？	◇付箋メモを並べた順番でお話を読む練習をする。 ◎付箋メモの順序はよさそうだ。 ■でも、付箋メモを順番に読むだけでは面白くないぞ。どこをもっと工夫したら年長さん生が面白いと思ってくれるかな。	◇つくったお話に合う絵を描いたり、読む練習をしたりする。 【3学期「ようこそ 新しい1年生」(1月)】 ・1日入学で年長さんに読み聞かせをする。 ◎お話が出来上がったから、まず、お友達にきいてもらいたいな。 ■お話をつくってみて、どんなことができるようになったかな？
		1 既習の昔話をヒントに、お話の大筋を考える。	2 中心人物の設定を考え、お話の大筋と合っているか確認する。 3・4 お話の大筋と人物設定を基に、出来事（したこと）を付箋メモに書き出す。	5 集めた出来事が書こうとしているお話に必要なか検討する。【本時】 6 付箋に書いたメモを、出来事が起こった順序に並び替えてお話を整える。	7・8 付箋メモを基に、お話を書く。 ・五感 ・昔話特有の表現の工夫 など、「言葉貯金」を取り入れ、表現を工夫してお話を書いて仕上げる。
★ 評価規準	★【思・判・表①】ノート 昔話の特徴や面白さを分類したものを基に、自分がヒントにしたい昔話を決めているか確認。	★【思・判・表①】設定メモ、キャラクター図 お話の大筋と人物設定が関連しているか確認、加筆したり削除したりしているか確認 ★【知・技①】付箋メモ お話の大筋を、主語「誰が」、述語「どんなことをする」お話か、ねじれない一文で書き表しているか確認 ★【思・判・表①】付箋メモ 「したこと」を使って、お話の内容を詳しくする付箋メモを増やしているか確認	★【思・判・表①】構成表・付箋メモ 集めた材料（付箋メモ）を整理し、お話に必要な材料を選んだり、不足している材料（付箋メモ）を書き加えたりしているか確認 ★【思・判・表①】構成表、付箋メモ 取捨選択した付箋メモを、出来事の順序やまとりに気を付けながら並べているか確認	★【思・判・表②】構成表、付箋メモ 材料の付箋メモを、お話がつながるように、文章に書き換えているか確認 ★【主体的①】原稿用紙 付箋メモごとのまとまりを文章化する過程で、昔話の「言葉貯金」から言葉を取り入れながら、工夫して最後まで書いているか確認	★友達がつくったお話を聞いて、年長さんが面白くと言ってくれそうか、「人物設定」や「したこと」について感想を言っているか確認 ★【思・判・表①】学習貯金シート 設定メモやキャラクター図、構成表等、お話の創作過程を振り返り、学習貯金を取り出しているか確認
◇「努力を要する」と判断した児童への支援	◇約1カ月前から、教室の図書に昔話を多く入れて読み聞かせて紹介するなど、図書環境を整えておく。 ◇これまでに読み貯めてきた昔話の記録カードを教室に掲示し、見返して思い出せるようにしておく。 ◇NHK for Schoolのコンテンツ「おはなしのくに」も併用して昔話に触れる機会を増やす。	◇人物設定で悩んでいる場合は、中心人物となる野菜や果物を選び、実際の昔話に置き換えて読んでイメージをもたせたり創作することの面白さを感じたりできるようにする。 ◇中心人物として選んだ野菜や果物等にどんな特徴があるのか想起させ、それが人だったらどんな性格や特技に繋がるのか考えさせる。 ◇主語を表す助詞「が」に印を付け、声に出して読んだりすることで確かめるようにさせる。	◇児童の構成表を取り上げ、一緒に検討することで解決へのイメージがもてるようにする。 ◇外せないと思う順に出来事を並べさせ、理由を聞くとともに、書こうとしている物語の大筋に立ち戻って考えさせる。 ◇声に出したり、動作化したりすることで時間の繋がりや出来事の順序がおかしくないか気付くことができるようにする。	◇付箋メモを文に書き換える例を、必要に応じて見返すことができよう提示しておく。 ◇付箋メモ一枚につき、一文で書き表すように、まとまりを対応させて書くようにさせる。 ◇使いたいと思っている「言葉貯金」に印を付けさせて、文章中のどこに入れればいいのか友達と相談できるようにする。	◇修正をかけている児童の文章を取り上げ、どうしてそのようにしたのか考えも共有することで、改めて相手意識や、活動のイメージがもてるようにする。 ◇単元で活用してきたメモや図や構成表が視覚的に振り返りやすいように、授業で活用してきた拡大掲示物も提示しておく。